

## 言語発達障害研究会 第 91 回定例会報告

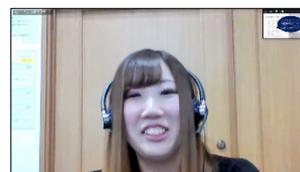
日時：2024年1月20日（土） 13:30～16:00  
 場所：オンライン  
 内容：Happy With Autism「自分らしく生きる」ことを支える  
 講師：綿貫 愛子先生  
 NPO 法人東京都自閉症協会  
 NPO 法人リトルプロフェッサーズ

第 91 回定例会は、NPO 法人東京都自閉症協会および NPO 法人リトルプロフェッサーズご所属の臨床発達心理士で ASD の当事者でもある綿貫愛子先生のお話を伺いました。言語聴覚士、教員、保育士など合わせて 40 名の方々のご参加をいただきました。

お話の中では「私の自閉症世界」として、幼少期より成人期に至るまで成長される中で、先生ご自身はその時何を感じ、何を考えていたのかのお話がありました。例えば幼少期に家の中で傘をさしたり、テントを出したりして過ごしていたのは感覚防衛の手段であったこと、尖足は足裏を床につけているときよりも、感覚的なフィードバックがしっかりと得られ、歩きやすいことなどです。

支援者が定型発達を基準とし、ASD の「症状」と称するものは、実は ASD の人たちにとって「意味のある行動」であることを教えていただきました。またこうした行動を「問題行動」と見なす、これまでの定型発達の価値観に立脚した自閉症支援は、その人本来の思考や記憶、計画の作成と実行などの幅広いスキルを学習する機会を喪失させる可能性があること、社会的カモフラージュの積み重ねによる疲弊や燃え尽き症候群などの二次的な障害状況を招きかねないことなどを述べられていました。

支援者として、ASD をはじめとした、様々な人たちのニューロダイバーシティ（神経多様性）をもっとよく理解したいと考えます。特定の価値観やライフスタイルを教えすぎることが与えるリスクを考え、ある意味、「支援はコワイもの」という自覚をもって自分の臨床を振り返る必要があると感じました。また支援は、先生の言葉のように、第一義的に支援を利用する人たちやその家族の「ハッピーでヘルシーでエンパワードな生き方」を支えるためのものである、ということをお忘れずに臨床に臨みたいと思いました。



綿貫愛子先生



ご講演の様子です

<参加者の声>

- 綿貫先生のご講演は、当事者の話でもあり、専門家としての話でもあり、とても面白く興味深かったです。症状だけみるのではなく、その人の行動の意味として捉えられると良いなと思いました。ありがとうございました。
- 支援のあり方をどうするかという大きなテーマのもと、本人がどうありたいか、本人も支援者も『らしさ』を見つけて、ありたいことに必要なことを身につけていく、とても大切なことだと感じました。
- 事前配布資料を拝見している時に、自分では暗いトーンで読んでいた部分が、綿貫先生のご講義の中では全体的に明るい口調で話されていたことが印象的でした。先生ご自身がハッピーに生きておられることが体現されていたと思います。素晴らしいご講義でした。
- 支援の際の具体的な方法として、明日から実践できることのヒントがたくさんありました。一方で、「自己決定」の場面をどう取り入れていくか、自分の働きかけは「社会的カモフラージュ」となっていないかなど、これまでの関わり方を見直していかなければならないと、強く感じる機会ともなりました。